

# 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4672000058
法人名	社会福祉法人 尚徳会
事業所名	グループホーム 遊花里
所在地	鹿児島県指宿市山川岡児ヶ水1211番地 (電話) 0993-35-0220
自己評価作成日	令和5年10月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和5年11月21日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・社会福祉法人が経営する特別養護老人ホームを母体とした併設施設であり、法人嘱託医・看護師による医療面の連携・協力体制や同一敷地内の併設事業所である、デイサービスセンターや在宅介護支援センター等との連携・応援体制も整っています。
- ・入所者と一緒に農園で季節の野菜を栽培し、収穫した野菜を使って昔なつかしい料理を楽しんでいます。
- ・日々の生活に楽しみや喜びを感じられるように、入所者一人ひとりの生活歴や得意なことを活かした役割、趣味活動、レクリエーション等を支援しています。
- ・職員一人ひとりが入所者の「その人らしい生活」とは何かということを常に考えながら、個々のペースに合わせて関わりを持つよう心掛けています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、母体の特別養護老人ホームに隣接して建てられている。同一敷地内にデイサービスや在宅介護支援センター等の事業所があり、協力・連携体制が整っている。利用者は状況の変化に応じて法人内の事業所を選択・利用する等、慣れた環境の中での生活継続が可能であり、また、系列の協力医療機関とは24時間の医療連携体制が築かれていることから、家族の安心と信頼を得ている。
- ・コロナ禍の影響で地域との交流や外出が自粛しているが、実習生や中学生の職場体験学習受け入れでの交流や地域の草刈り等、地域貢献にも取り組んでいる。
- ・眠りスキヤンの導入により、睡眠状態の正確な把握が可能になり医師への説明や過剰服薬への対策に活かすとともに、職員の負担軽減が図られている。また、職員の勤務が3交代から2交代に変更されたことに伴う休憩時間の確保など、法人で職員が働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念はご家族も確認できるように玄関に掲示し、ミーティングの時はみんなで復唱している。また、勉強会も行いながら認知症介護の理解を深め、人権を尊重した基本的ケアを実践している。	理念をタイムカード設置場所に掲示して毎日確認できるようにしている。毎月のミーティング時に唱和するとともにケアを振り返り、理念に沿った実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の影響で地域と直接的なつきあいはできていないが、県道に続く道路の土手の草刈りを行っている。	法人で自治会に加入しているが、まだ行事参加は自粛しており、年数回の草刈りのみ実施している。苑のコンサートに外部の参加者と同席したり、実習生や中学生の職場体験学習を受け入れ地域との交流をしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	法人が主体となり、ご家族や地域住民を対象とした勉強会や地域交流文化講演活動を開催し、地域とのつながりを強めている。今年度は、新型コロナウイルス感染防止の観点からできていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに運営推進会議を開催し、ホームの生活状況やひやり・はっと等の報告を行い、委員からの意見をサービスの向上に役立てている。今年度については、第1から第3回は新型コロナウイルス感染防止の観点から、運営推進会議は書面での会議を行っている。	運営推進会議を2ヶ月毎に実施している。10月からは対面開催となり、事業所からの報告を中心に意見交換を実施している。事故の防止対策についての質問が寄せられ、事業所の具体的な取り組みを理解してもらう良き機会となった。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議や市のグループホーム連絡協議会への参加で情報を提供していただき、運営上の疑問点など相談している。	支所の担当者と運営推進会議で意見交換をしたり、本庁に相談・報告で出向く等、行政と連携を図り協力関係を築いている。市の研修会や集団指導に参加し、情報交換にも努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化検討委員会を設置し、3ヶ月に1回会議を開催し、ケアの内容を確認している。また年2回内部研修を行い、身体拘束ゼロへの理解を持ち、拘束をしないケアを実践している。	指針を作成し、委員会を3ヶ月毎、研修会を年2回実施し身体拘束についての理解を深めている。日頃から職員間でスピーチロックについて話し合ったり、日中は玄関の施錠はせず外に出ていく利用者には散歩に同行する等、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の年間計画に虐待の防止についてのテーマを設け話し合い理解に努め、虐待のないより良いケアを実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会の年間計画に権利擁護に関するテーマを設け、制度の理解に努めている。実際、利用者のご家族から相談を受けた際は、厚生労働省のパンフレットを活用し説明を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に契約書・重要事項説明書を用いて説明し、不明な点がないかお聞きし、納得していただくよう努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>月1回入所者との「意見交換会(ゆうかり会議)」を行い、不備や苦情、意見などを発言する機会を設け、遠慮なく何でも話せる雰囲気作りに努めている。契約時、苦情相談窓口のある事を説明し、玄関に意見箱を設置している。</p>	<p>利用者との意見交換会では食べ物の希望が多く出され、おやつ等に取り入れている。家族には来訪時や電話での近況報告時に要望等を聞き対応に努めている。対面面会の希望については、感染予防のためリモート及び窓越し面会を実施していることを説明し理解してもらっている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月、管理職会議を開催し、各事業所の管理者から現場の意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。</li> <li>・毎月、ユニットミーティングを開催して意見を交換し、会議録を提出、報告している。</li> </ul>	<p>ミーティング時に職員の意見を聞く機会を設け、必要事項は法人に提案している。勤務体制変更に伴う休憩時間の確保についても法人に提案し、手当等に反映している。施設長による年1回の個人面談のほか、個別相談は管理者が受けている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人事考課で自己評価及び管理職評価システムを採用し、スキル向上に取り組んでいる。</li> <li>・職員の資格取得や自己研鑽のための各種研修への参加や、職員が向上心を持って働けるよう職能評価を行っている。</li> </ul>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間の内部研修計画書を作成し、それに沿って実施している。</li> <li>・外部研修後は復命書を作成、ミーティングの中で発表し、皆で共有できるようにしている。また、オンライン研修などを活用している。</li> </ul>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県・地区のグループホーム連絡協議会に入会し、他施設の職員と意見交換や研修会への参加等、交流する場を設け、サービスの質の向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	施設見学でご本人やご家族の意向を伺い、安心してサービスを受けられるように努めている。		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	ご家族がこれまでの経緯を聞き、ご家族の気持ちに寄り添いながら関係作りに努めている。		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	相談があった場合は、法人全事業所の管理職会議の中で、他事業所の管理者と情報を共有して必要な支援を一緒に考えるようにしている。		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	ご本人の思いを知ること努め、その思いを尊重し支援している。また、支援する側でなく入所者ご本人が選択できるように声かけを行っており、入居者本人の主体制を尊重したケアを心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ定期的に「ゆうかりメール」を郵送し、写真付きで個々の生活状況を報告している。また面会時にはご本人の近況を伝えるとともに、ご家族の要望や意見を聞き、共に入所者を支えていく関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染防止の観点から馴染みの人との対面での面会や外出はできない為、リモートでの面会や電話、手紙等で交流ができるよう働きかけている。	家族・知人とのリモートや窓越し面会、電話・手紙での交流を支援するとともに、事業所からも毎月近況報告を行ない関係が途切れないように努めている。2 ユニットの合同イベント等で利用者間の交流も実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員はご利用者が孤立しないようにご利用者同士の会話の橋渡しを行い、交流ができるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関や併設の施設へ移られたご利用者の所へ面会に行ったり、またご家族から相談を受けた場合は対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎月意見交換会(ゆうかり会議)を実施し、入所者の希望など聞く機会を設けている。また、日々の会話や表情からご本人の思いや意向の把握に努めている。	日常会話や毎月の意見交換会で本人の思いを把握するように努めている。困難な場合は、家族や法人内の入居前利用サービス事業所からの情報を参考に、本人の表情等から思いをくみ取るように努め支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に生活歴など家族や支援センターから情報を伺っている。また、一緒に生活していく中で、少しずつ信頼関係を築き、色々なこととお聞きし、気づいた事の情報交換をしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムや心身状態を記録し本人の全体像の把握に努め、職員間で情報共有し、支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・職員が記録した個別の介護日誌と利用者や家族の思いを聞き、介護計画に取り入れている。 ・毎月の介護支援経過、3ヶ月ごとにモニタリングを実施し、介護計画の見直しを行っている。	電話や面会時に把握した家族の意見に、記録や勤務中に聞いた職員の意見を加えて介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、計画の見直しを行っている。状況変化等の必要時も現状に合った介護計画に見直ししている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入所者の日々の様子や状態の変化、気づきなどを記録し、ケアの内容や介護計画の見直しに活かしている。</li> <li>・ユニットミーティングや申し送りノートを活用し、職員間で情報を共有している。</li> </ul>		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況、その時々状況に合わせ、受診の介助や入・退院の送迎等を支援している。医療連携体制を活かし、嘱託医や看護師、栄養士との連携を図っている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生の職場体験の受け入れや総合防災訓練を行い、出火時の初期消火・避難誘導等について消防署の方の指導をいただいている。今年度は中学生(3名)介護体験での受け入れを実施している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週3回、嘱託医の往診がある。また、24時間体制で連絡ができるようになっており、緊急な対応もできている。</li> <li>・ご本人、ご家族が選ぶ医療機関がある場合は、そこに受診できるように協力している。</li> </ul>	契約時に確認し、協力医療機関による往診を全員が受けており、24時間の医療連携体制が築かれている。他科受診は家族対応が原則であるが、職員の対応時は結果を家族に報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の看護師、または併設施設の看護職員と連携しながら健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入所者の入院に対し、ご家族と連絡を取りながら病状の把握を行っている。入院した際は介護サマリーを作成し、安心して治療を受けられるよう情報提供を行っている。また、入院先の面会に行き経過を伺い主治医に報告し、早く退院ができるよう連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した入所者に対しては、ご家族と話し合いを持ち、事業所で出来ることを十分に説明するとともに、嘱託医へ相談して状態に応じた対応を行っている。	契約時に重度化等の場合の対応について説明している。特別養護老人ホームについて説明している。重度化等の場合に主治医から家族に説明し、家族の意向を確認して同意書を得ている。看取り介護の実施及び職員の研修については今後検討していく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応マニュアルを作成し、定期的に勉強会を行い、実践力を身に付けている。不明な点はその都度、看護師へ指導を仰ぎ理解するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月実施している訓練では火災だけでなく、地震・津波・水害なども想定し行っている。</li> <li>・BCP（事業継続計画）を作成し、目に付きやすい場所に置き、職員がいつでも確認できるようにしている。</li> <li>・緊急連絡網を作成し、毎年6月に緊急収集を行い、災害が発生した時に速やかに対応できるようにしている。</li> <li>・地区の公民館と災害時緊急避難指定施設として使用できるように申し合わせができています。</li> </ul>	<p>年2回法人で避難訓練を実施している。毎月2回事業所の職員及び利用者が参加して、火災通報訓練等の自主訓練を実施している。非常用の備蓄は、法人で7日分の水や食料等を確保している。災害時の緊急避難指定施設として法人が市と協定を結んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	更衣・排泄時はカーテンやドアを閉めるようにし、一人ひとりのプライバシー・自尊心を傷付けないよう配慮した声掛けや対応をしている。	研修会を実施し、さん付けでの呼びかけや入室時のノック、排泄介助時のさり気ない声掛け、入浴の同性介助等、誇りやプライバシーを損ねないように声掛けや対応をしている。申し送りはホールで内容が利用者にわからないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いを傾聴し、自己決定できるよう支援している。また、意思疎通が難しい方には表情や日頃の様子などからご本人の思いを察して支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	望む暮らしの実現に向けて一人ひとりの意向を確認しながら、また個々のペースに合わせた生活をして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	起床後の洗顔や整髪、身だしなみを整える支援を行っている。その日に着る服は、ご本人がその時の気分に合わせて洋服選びができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>一緒に食事の盛りつけや片付け等を行なっている。</li> <li>利用者の食の好み嚥下機能の状態を把握し、食事の時間を楽しく過ごせるよう支援している。</li> </ul>	主食のほかは特別養護老人ホームからの配食を受け、盛りつけや配膳を利用者も一緒にしている。おやつを利用者と作ることもある。行事食や誕生日のケーキ、公園や庭でのお茶・食事などで食事を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理栄養士の指導の下、栄養管理をしている。</li> <li>毎日、食事摂取量と水分摂取量を記録して職員全員が情報を共有している。</li> </ul>		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎食後に義歯の洗浄や歯磨きの声掛け、誘導を行い口腔ケアに努めている。</li> <li>義歯の不整合や口腔内に異常が見られた時は、協力医療機関の歯科医に往診を依頼している。</li> </ul>		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作り、一人ひとりの排泄パターンを把握している。また、入所者の排泄サインを見逃さないように気を付け、声掛け・トイレ誘導し、自立に向けた支援を行っている。	日中はトイレでの排泄を基本に支援しており、排泄の失敗の減少等の改善例がある。布パンツ使用を維持している利用者もあり、排泄用品は経済面も考慮し適切なものを検討している。夜間は安全のため、ポータブルトイレを主に使用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・排泄チェック表を利用して排泄パターンを把握し、意向を踏まえ適度な運動を促している。 ・食事量、水分量を確認しながら、摂取の声かけを行い自然排便へ繋げている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	体調把握をしながら、本人の希望する入浴支援を行っており、楽しんで入浴できるよう努めている。入浴の不可能な方は清拭対応し支援している。	週2回の入浴支援で、時間は利用者の状況等で柔軟に対応している。身体状況に応じての清拭や希望でシャワー浴、同性介助も実施している。嫌がる場合は無理強いせず、声掛けを工夫したり清拭を行うこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・日中の活動を通して生活のリズムを作り、安眠につながるよう支援している。 ・昼寝や就寝時間は一人ひとりの生活習慣やその時の意向に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬リストを作成し、薬の説明書と一緒にファイルしており、いつでも確認できるようにしている。また、症状が変化した時は看護師に報告し、必要に応じて受診する等の体制ができています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの生活歴や得意なこと等を把握し、その日の気分や各自の能力に合わせた作業や、嗜好品を楽しめるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>新型コロナウイルス感染防止の観点から、外出はできていないが天気の良い日は、庭を散歩をしたり、敷地内の公園でお茶を飲んで過ごしている。</p>	<p>天候の良い日は、庭の散歩や敷地内の公園のベンチでの外気浴・お茶などで室内に閉じこもらないように支援している。他科受診で家族と外出したり、職員と自宅近くへドライブすることもある。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入所者、家族との相談の上、それぞれの希望に応じて金銭管理の支援をしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご家族からの電話を取り次いだり、自ら電話を利用される方もいる。</li> <li>・ご家族から荷物が届いたとき等、お礼の電話やお手紙を書かれる方もいる。</li> </ul>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面構成など季節を感じられる装飾を行なっている。また、季節にあった植物を一緒に育てている。温度・湿度の管理をし、居心地の良い空間作りを行なっている。	ホールは空気清浄機や加湿器・エアコンで適度な室内環境に調節し、窓を開けて換気も十分に行っている。室内の季節の飾りつけや利用者が取り組んでいるプランターでの野菜栽培で季節を感じている。利用者が思い思いに好みの場所でくつろげるよう、ソファ等を配置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファがくつろぎの場になっており、気の合う入所者同士で思い思いに過ごしている。また独りになりたい時は、玄関ホールにテーブルと椅子を置き自由に過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや椅子、テレビを持ってこられたり、家族の写真や自分の作品など好みの物が飾られており、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室にはベッドやタンス・エアコンが設置している。寝具はリースで清潔に保たれている。本人の好みや必要に応じ、テレビやタンス・ハンガーラック・ポータブルトイレ・毛布等を持ち込んだり、写真やぬいぐるみを身近に置き、居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廊下には転倒防止の手すりが設置されている。</li> <li>・床はバリアフリーとなっており、利用者一人ひとりの身体機能に合わせた動きができるようにしている。</li> </ul>		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない